

研究テーマ

書くことにおける表現力を高める指導の工夫

提案者 笠原雅広

I 研究テーマについて

1 テーマ設定の理由

本研究で目指す表現力が高まった低学年の児童とは、簡単な構成を考えると、表現を工夫して書くことができる児童である。簡単な構成を考えて書くとは、内容のまとまりごとに、順序よく書くことである。表現を工夫して書くとは、相手に伝わるように、言葉を選んで書くことである。私がこのような児童像を目指すようになったのは、以下のような理由からである。

これまでの「書くこと」の指導を振り返ると、構成の仕方や表現の工夫がされたモデル文を手本としてから、児童が模倣して書くようにしてきた。また、「言葉のワザ」として、児童が文章を書く際に参考になるような言葉の表現を蓄積してきた。成果としては、内容のまとまりごとに構成を考えて書くことができるようになったこと、習得した言葉の表現を使うことができるようになったことである。一方、順序よく書いた事例はまだ少ない。また、より適切な言葉の表現を選べるように、表現を増やしたり選びやすくしたりする必要があると感じている。

そこで、本単元では、モデル文や「言葉のワザ」をさらに効果的に活用していく。具体的には、「言葉のワザ」を使わずに、順序よく書けていないモデル文を提示し、問題点を考えさせることで、順序よく書くよさを実感できるようにする。また、モデル文の段落の色と、ワークシートの段落の色とを対応して作成することで、モデル文から学んだ構成の仕方を、自分の文章に確実に活用できるようにする。さらに、蓄積してきた「言葉のワザ」の中から、単元に合った表現を精選して提示することで、自分の文章に取り入れやすくする。



文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集」には、「思考力・判断力・表現力」の向上のために、国語科においては、各教科の基盤となる言葉の力を育成し、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う必要があると述べられている。本研究では各教科で基盤となる「説明」の力をつけていきたい。

以上のような考えから本研究主題を設定し、実践に臨むこととした。

2 テーマにせまるための方策

研究主題にせまるため、次のような研究の視点と手だてを考え、実践を行い、検証を試みる。

視 点

モデル文や「言葉のワザ」をさらに効果的に活用できるように指導することで、簡単な構成を考えると、表現を工夫して書くことができるようにする。

〈手立て〉

- (1) モデル文や「言葉のワザ」をさらに効果的に活用するために、「言葉のワザ」を使わずに、順序よく書けていないモデル文を提示し、問題点を話し合わせる。具体的には、「言葉のワザ」を使わずに、順序よく書けていないモデル文を基に実際におもちゃをつくり、問題点を話し合うことで、順序よく書くよさを実感できるようにする。
- (2) モデル文をさらに効果的に活用するために、モデル文の色とワークシートの色を対応させる。具体的には、手本となるモデル文の段落の色と、児童が書くワークシートの段落の色とを対応させることで、手本となるモデル文の順序を意識して、書くことができるようにする。
- (3) 「言葉のワザ」をさらに効果的に活用するために、「言葉のワザ」の中から、単元に合った言葉の表現を精選して提示する。具体的には、本単元で扱う「言葉のワザ」は、①順序を表す言葉、②写真や図との対応を表す言葉、③様子を表す言葉とし、提示することで、自分の文章に取り入れやすくする。